

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	フェリシアこども短期大学
設置者名	学校法人 明泉学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省令 で定 める 基準 単位 数	配 置 困 難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	国際こども教育 学科		64			64	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学ホームページにて公表(情報公開：Ⅱ-5) 「実務経験のある教員等による授業科目一覧」 https://www.felicia.ac.jp/pdf/public/2026_List_of_Courses.pdf
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	フェリシアこども短期大学
設置者名	学校法人 明泉学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

本学ホームページにて公表(情報公開：I-9)
https://www.felicia.ac.jp/pdf/public/2026_List_of_officers.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	有限会社 johō 設計 代表取締役	令和4年 11月21日 ～ 令和8年 11月20日	市場調査研究活動 リスクマネジメント 営繕管理チェック
非常勤	伊藤機電株式会社 代表取締役	令和4年 4月1日 ～ 令和8年 11月20日	市場調査研究活動 リスクマネジメント 営繕管理チェック
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	フェリシアこども短期大学
設置者名	学校法人 明泉学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) フェリシアこども短期大学学則に基づく「授業計画及び成績評価基準に関するガイドライン」を作成し、シラバス作成時の必要事項(授業方法とその内容、到達目標、成績評価の方法と基準等)を規定している。 さらに、シラバス作成にあたっては、シラバス作成要領を年度ごとに作成し、下記の項目について必須記載項目として全教員に徹底している。</p> <p>(1) 講義概要 (2) 実務経験の有無と内容およびその教育について (3) 授業計画および学習形態 (4) 教育目標との関連 (5) 到達目標について (6) 評価方法および評価基準 (7) 期末試験・期末レポートのフィードバック方法 (8) 教科書 (9) 参考書・参考資料・参考URLなど (10) 準備学習(予習・復習等) (11) 履修上の注意、条件等 (12) オフィスアワーについて (13) 備考・メッセージ</p> <p>各教員が作成したシラバスは、シラバスチェック(執筆者以外の教職員がチェックをし、シラバス作成要領に明記された記載要件を満たさなければ修正)を行った後に、学生に公表している。 授業計画は前年度の秋学期より作成を開始し、学生には当該年度が始まる前の3月に学内のポータルサイトにて公表するとともに、当該年度の開始時点で本学情報公開ホームページにも情報公開している。なお、実務経験のある教員等による授業科目については、学生や外部の者が判別できるよう、シラバス上で明示している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>本学ホームページにて公表 (情報公開：Ⅱ修学上の情報等 シラバス)</p> <p>https://www.felicia.ac.jp/pdf/2026_Syllabus.pdf</p>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

(1) 成績評価の基本とガイドライン

以下の通り、学則に基づき厳格な成績評価を実施している。

① 成績評価は、学生が何をどの程度できるようになったかを評価することを基本とする。

② 成績の評価基準は、学則第22条（成績評価基準）及びGPA制度に関する規程第2条（評価等）に基づき評価している。

③ 教務委員会は各期の成績評価結果（学年別GPA分布及び科目別成績分布）を学内ポータルサイトに公表している。また、この資料に基づき、短大企画本部及び教務委員会が各期の評価結果の妥当性について検証を行い、成績評価基準の認識の統一を図っている。

(2) 成績評価（単位認定）のための具体的指標

① 多様な評価項目を通じて厳正かつ適正な評価となるよう心掛けている。試験やレポートの内容、学習への意欲など、どのように学修成果を評価し単位認定するのかについて、あらかじめ学生に対して明確に示している。

② 評価方法として、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価や学修ポートフォリオを活用している。ルーブリックを用いたパフォーマンス評価では、到達目標と評価基準のマトリクスを学生に示し、達成基準を明確にしている。この基準に基づき、レポート、プレゼンテーション、グループ学習などを多角的に評価し、個々の授業の総括的評価（成績評価）や形成的評価を行っている。

③ シラバスの「評価方法および評価基準」欄には、評価内容の配分割合と、具体的な評価基準を明記している。

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では、成績評価の透明性を高め、学生の能動的な学修活動の推進と教員によるきめ細やかな履修指導、および教育の質向上を図ることを目的として、独自の「GPA制度に関する規程」を整備・運用している。</p> <p>(1) GPA制度の算出方法と客観的指標 学生が履修した授業科目の成績評語に対し、以下の通りグレード・ポイント(以下「GP」)を設定し、客観的な指標として活用している。 S (到達目標を超えたレベルを達成している) : 4 A (到達目標を達成している) : 3 B (到達目標に概ね到達している) : 2 C (到達目標に到達するには努力を要する) : 1 D (到達目標に到達していない) : 0</p> <p>GPAの算出は、「(GP×単位数)の総和 ÷ 履修登録単位数」の数式を用い、小数点以下第三位を四捨五入して算出している。なお、他大学等で履修した科目や、資格・検定試験による単位認定科目などは算出の対象外としている。</p> <p>(2) 成績分布状況の把握と公表 成績の公平性の確保と学生等への説明責任を果たすため、科目ごとに「S・A・B・C・D」の成績分布状況を把握し、教員及び学生向けに学内ポータルサイト等で公表している。また、全体のGPA分布図については「自己点検評価報告書」に明示し、学内外へ適切に情報公開を行っている。</p> <p>(3) GPAの具体的な活用と学修指導 算出されたGPAの数値は、単なる成績評価に留まらず、以下の通り具体的な指導や支援に連動させている。 修学支援・指導： 一定のポイントに満たない学業不振学生（成績注意者）に対しては、早期に面談や修学指導を行う体制を整えている。 インセンティブ・活用： 学業成績優秀者の表彰や、学内における各種奨学生の選考、および卒業判定の重要な指標として活用している。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	<p>本学ホームページ情報公開にて以下のものを公表</p> <p>https://www.felicia.ac.jp/pdf/public/2024_GPA_Rules.pdf</p>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では、学則に定める教育目的に基づいて編成された教育課程を学修し、卒業に必要な所定の単位を修得した学生に対し、短期大学士の学位を授与している。これらの卒業認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）や卒業要件、免許・資格取得の要件については、学則や履修規程、実習単位認定基準に明示し、学生ハンドブック（履修便覧）への掲載および本学ホームページにて広く学内外に公表している。</p> <p>(1) 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 本学では、以下の5つの能力の修得を卒業認定の方針として掲げている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 【知識・理解】 保育者として必要な教養、子どもや保育の内容・方法を理解し、基礎的な専門知識を身につけることができる。 2. 【思考・判断】 学習した知識・技術を総合して、筋道をつけて考え、保育展開や家庭支援、課題解決に向けて適切に判断することができる。 3. 【技能・表現】 学習した知識・技術を活用して、保育展開や家庭支援、課題解決に必要な実践・表現ができる。 4. 【関心・意欲】 子どもや子育てに関する関心を高め、自らを省察し、主体的・意欲的に学びを深めることができる。 5. 【人間性・社会性】 社会の一員としての自覚を持ち、他者および多様性を尊重し、協力・協働を図るとともに、深い愛情と共感性をもって他者に接したり、社会に貢献したりできる。 <p>(2) 卒業要件の設定と厳格な運用 卒業要件については、学則および履修規程に基づき必要単位数を厳格に定めている。また、「GPA制度に関する規程」においては、入学時からの累計ポイントの指標（努力義務）を明示し、単に単位数を満たすだけでなく、学修の質が一定水準に達しているかを合わせて確認している。</p> <p>(3) 卒業認定の手順 各期の成績確定後、学生一人ひとりの要件充足状況を厳密に確認し、「卒業判定会議」での審議、および「教授会」での議を経て、最終的に学長が卒業認定を行うという適正なプロセスを徹底している。</p>
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本学ホームページ・情報公開にて公表している。 〈卒業認定と学位授与の方針〉 https://www.felicia.ac.jp/introduction/about_us.html 〈学則・履修規程・GPA規程〉 https://www.felicia.ac.jp/introduction/public.html 2. これらの情報が記載されている学生ハンドブックは、学生及び教職員に配布している。またオンライン上（学生ポータルサイト）でも閲覧できるようにしている。

(3) 学校教育法施行規則第172条の2第1項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名
<p>教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ） https://www.felicia.ac.jp/introduction/about_us.html</p>
<p>（概要） 多文化共生が求められる現代の乳幼児教育現場において、子どもの最善の利益を最優先に保障し、豊かな人間性と深い愛情をもって実践にあたる乳幼児教育者を養成することを目的とする。 あわせて、その基盤となる専門的な教育および実践的な研究活動を展開する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ） https://www.felicia.ac.jp/introduction/about_us.html</p>
<p>（概要） 本学では、学則に定める教育の目的に基づいて編成された教育課程を学修し、卒業に必要な所定の単位を修得した学生に対し、短期大学士の学位を授与する。 また、ディプロマ・ポリシーに則り、成績評価の基準は学則、免許・資格取得の要件は、実習単位認定基準に明示している。</p> <p>●学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>①【知識・理解】保育者として必要な教養、子どもや保育の内容・方法を理解し、基礎的な専門知識を身につけることができる。</p> <p>②【思考・判断】学習した知識・技術を総合して、筋道をつけて考え、保育展開や家庭支援、課題解決に向けて適切に判断することができる。</p> <p>③【技能・表現】学習した知識・技術を活用して、保育展開や家庭支援、課題解決に必要な実践・表現ができる。</p> <p>④【関心・意欲】子どもや子育てに関する関心を高め、自らを省察し、主体的・意欲的に学びを深めることができる。</p> <p>⑤【人間性・社会性】社会の一員としての自覚を持ち、他者および多様性を尊重し、協力・協働を図るとともに、深い愛情と共感性をもって他者に接したり、社会に貢献したりできる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ） https://www.felicia.ac.jp/introduction/about_us.html</p>
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学は「国際こども教育学科」の単科の大学であり、保育士・幼稚園教諭などの保育者養成を目的とする。本学の「建学の精神」である「愛の教育」および、教育理念である「愛をもって幼児を育成する保育者の養成」に則り、保育・教育に必要な専門的知識と技術の修得を意図して教育課程を編成し、授業を展開している。

<ul style="list-style-type: none"> ● ディプロマ・ポリシーで掲げる人物像を育成するため、理論と実践のバランスを重視した以下の「8つの領域」を設定し、多面的な人材育成とカリキュラムの構成を図っている。 <ol style="list-style-type: none"> ① 教育・保育の本質と目的に関する科目 ② 人間の理解に関する科目 ③ 世界の教育・保育に関する科目 ④ 表現技術・基礎技能に関する科目 ⑤ 言語に関する科目 ⑥ 教育・保育の内容・方法に関する科目 ⑦ 実習・実践・研究に関する科目 ⑧ 教養に関する科目 <ol style="list-style-type: none"> 1. 【教養科目】 国際理解や日本の文化、倫理など、人間として健康に豊かに生きていくための幅広い教養科目を設置する。特に、キャリア教育は2年間を通して行い、初年次教育から社会人基礎力の育成まで一貫したひとつの科目として編成する。 2. 【専門教育科目】 乳幼児教育の原理から実践に必要な技能の修得まで、科目間の連携を図りながら、実践演習をひとつの集大成科目と位置づけ、重層的に科目を編成する。 3. 【言語に関する科目】 グローバル社会の中で活躍できる保育者の養成を目指し、正しい日本語と、実践的な英語コミュニケーション能力を修得するための科目を編成する。 4. 【資格・免許取得】 2年間（国際こども教育コースは3年間）で保育士資格と幼稚園教諭免許状が取得できるよう教育課程を編成し、事前・事後指導も含めて実習科目を体系的に編成する。 5. 【時間割編成（少人数教育）】 乳幼児教育の専門職としての意識を高め、アクティブ・ラーニングで実践的な力を養うため、演習科目のみならず講義科目もできる限り少人数で履修できるよう時間割を編成する。 6. 【学修方法と実践的展開】 子どもを取り巻く現代的諸問題に対する関心を高め、学習した知識・技術を総合して適切な保育・子育て支援の実践的展開や課題解決ができるよう、主体的・意欲的に学びを深めるためのアクティブ・ラーニング形式の科目を多く配置する。また、社会のグローバル化に伴い、多文化に対応できる国際感覚豊かな保育者養成のために、海外フィールドワークなど多角的な授業展開科目を配置している。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ） https://www.felicia.ac.jp/introduction/about_us.html</p>
<p>（概要） 本学は、建学の精神である「愛の教育」と保育者養成校としての社会的使命に基づき、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに掲げた教育を行っている。 こうした教育を受けるための条件として、次に挙げた資質・能力や意欲を持った学生を広く受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 【知識・理解】 高等学校までの学習を通して、入学後の学修に必要な基礎的な学力を有しているとともに、基本的な生活習慣が確立している人 ② 【思考・判断】 自ら課題を発見し、解決するために必要な力（思考力・判断力・表現力）の基礎を有している人 ③ 【技能・表現】 自分の考えを適切に表現できる能力を持つ人 ④ 【関心・意欲】 <ul style="list-style-type: none"> ● 保育者になろうとする強い意志を持ち、子どもと積極的にかかわり理解しようとする人 ● 日本だけでなく、海外の子どもや保育を取りまく社会の状況に関心を持っている人

⑤【人間性・社会性】

- 建学の精神である「愛の教育」を理解し、豊かな感性と深い愛情をもって子どもの健やかな成長を支援しようとする人
- 多様な人々と積極的にコミュニケーションをとり、協働して学ぶ態度がある人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学ホームページ（情報公開）

https://www.felicia.ac.jp/pdf/public/2026_basic_organization.pdf

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
国際こども教育学科	—	4人	1人	3人	2人	1人	11人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
—		—					22人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：本学ホームページ https://www.felicia.ac.jp/department_of_ice/teacher_introduction.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
国際こども教育学科	100人	81人	81.0%	230人	152人	66.1%	0人	0人
合計	100人	81人	81.0%	230人	152人	66.1%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
国際こども教育学科	89人 (100%)	9人 (10.1%)	69人 (77.5%)	11人 (12.4%)
合計	89人 (100%)	9人 (10.1%)	69人 (77.5%)	11人 (12.4%)
(任意記載事項)				
(主な進学先) フェリシアこども短期大学 専攻科、駒沢女子大学(編入)、田園調布学園大学(編入)				
(主な就職先) (認定こども園) フェリシア幼稚園、成瀬フェリシア保育園、秦野市立ひろはたこども園、由井さゆり学園、昭島ナオミこども園、けいしょう幼稚園、鶴川若竹幼稚園、聖セシリアこども園、つくしの幼稚園、つきみ野幼稚園、相模林間幼稚園、鎌田のびやか園、町田南保育園、子どもの森保育園、ひよこ保育園、天宿保育園、京町いづみ保育園、木の子保育園、成光学園、社会福祉法人セイワ				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>フェリシアこども短期大学学則に基づく「授業計画及び成績評価基準に関するガイドライン」を作成し、シラバス作成時の必要事項（授業方法とその内容、到達目標、成績評価の方法と基準等）を規定している。</p> <p>さらに、シラバス作成にあたっては、シラバス作成要領を年度ごとに作成し、下記の項目について必須記載項目として全教員に徹底している。</p> <p>(1) 講義概要 (2) 実務経験の有無と内容およびその教育について (3) 授業計画および学習形態 (4) 教育目標との関連 (5) 到達目標について (6) 評価方法および評価基準 (7) 期末試験・期末レポートのフィードバック方法 (8) 教科書 (9) 参考書・参考資料・参考 URL など (10) 準備学習（予習・復習等） (11) 履修上の注意、条件等 (12) オフィスアワーについて (13) 備考・メッセージ</p> <p>各教員が作成したシラバスは、執筆者以外の教職員による「シラバスチェック」を行い、作成要領に明記された記載要件を満たしているか厳密に確認・修正した上で学生に公表している。</p> <p>授業計画は前年度の秋学期より作成を開始し、学生には当該年度が始まる前の3月に学内のポータルサイトにて公表するとともに、当該年度の開始時点で本学情報公開ホームページにも情報公開している。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>本学では、学則に定める教育の目的に基づいて編成された教育課程を学修し、卒業に必要な所定の単位を修得した学生に対し、短期大学士の学位を授与している。</p> <p>また、ディプロマ・ポリシーに則り、成績評価の基準は学則に、免許・資格取得の要件は実習単位認定基準にそれぞれ明示している。</p> <p>●教育理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教育・福祉の専門知識を活かして、家庭にあっても社会にあっても、あるいは世界にあっても、自らのおかれた環境に地歩を固め、自分らしく生きることができる力をもった人材を育成する。 ● 乳幼児の心身の発達についての広範な知識と、確かな保育技術を有する人材を育成する。 <p>●学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 【知識・理解】 保育者として必要な教養、子どもや保育の内容・方法を理解し、基礎的な専門知識を身につけることができる。 2. 【思考・判断】 学習した知識・技術を総合して、筋道をつけて考え、保育展開や家庭支援、課題解決に向けて適切に判断することができる。 3. 【技能・表現】 学習した知識・技術を活用して、保育展開や家庭支援、課題解決に必要な実践・表現ができる。 4. 【関心・意欲】 子どもや子育てに関する関心を高め、自らを省察し、主体的・意欲的に学びを深めることができる。 5. 【人間性・社会性】 社会の一員としての自覚を持ち、他者および多様性を尊重し、協力・協働を図るとともに、深い愛情と共感性をもって他者に接したり、社会に貢献したりできる。 <p>卒業要件については学則および履修規程に必要な単位数を定め、またGPA規程には、入学時からの累計ポイントの指標（努力義務）を明示している。</p> <p>なお、卒業認定の手順については、卒業判定会議での審議、および教授会での議を経て、最終的に学長が認定する適正なプロセスを徹底している。</p>				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	国際こども教育学科	62 単位	①有・無	50 単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：本学ホームページ（情報公開） https://www.felicia.ac.jp/pdf/public/2024_GPA_Rules.pdf		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法：本学ホームページ (キャンパスマップ)</p> <p>https://www.felicia.ac.jp/introduction/campus_map.html</p> <p>(キャンパスガイド)</p> <p>https://www.felicia.ac.jp/pdf/public/2027_Campus_Guide.pdf</p> <p>(附属図書館)</p> <p>https://www.felicia.ac.jp/library.html</p>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	国際こども教育学科	940,000円	300,000円	330,000円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要) 学生への経済的支援として奨学金制度がある。学生支援室では、学外奨学金である日本学生支援機構奨学金（給付・貸与）や保育士修学資金（貸与）の申請手続きを行っている。また、学内奨学金としてフェリシアこども短期大学奨学金（給付）が設けられている。人物的に優れ、学習意欲が高いにもかかわらず経済的に困窮している学生を支援している。障害学生に対しては、障害者差別解消法に基づき、ダイバーシティ推進室を設置し、各部署が連携しながら支援をする体制が整えられている。支援を申し出た学生に対しては面談を行い、審議を経た上で合意書を交わしている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組 (概要) 就職支援においては、学生支援室の職員とクラス担任等の教員が密に情報交換を行いながら、個々の学生の希望や適性に応じた個別支援にあたっている。学生支援室では、求人票だけでなく過去の受験報告書等の就職関連資料を整理し、学生が自由に閲覧できるような環境を整えている。 また、東京労働局（新卒応援ハローワーク）よりジョブサポーターの派遣（月1回）を受け、保育・幼児教育職だけでなく、一般企業就職希望者に対する専門的な就職相談を実施している。さらに、公立保育士の受験希望者に対しては、1年次より計画的に受験対策講座を開講している。 キャリア（職業）教育のための授業科目としては、「キャンパスライフデザイン」「キャリアデザイン」を開講している。これらの授業では、単なる仕事の選択に留まらず、将来のライフイベント等を含んだ生涯にわたるライフスタイルのプロセスを明確に描くための指導を行っている。特に、2年次対象の「キャリアデザイン」では、学内就職説明会や面接シミュレーション（模擬面接）を実施し、学生全員が適切な就職先と出会い、自らのキャリアについて深く考える機会を提供している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 (概要) 身体面の健康管理は学生支援室が中心となって行っており、年1回の定期健康診断を実施しているほか、体調不良時には学生が静養室を使用できる環境を整えている。 メンタルヘルスケア（心の健康管理）については、学生相談室が中心となって対応している。専門のカウンセラー（臨床心理士等）1名が週に1日来校し、事前予約制による丁寧なカウンセリングを実施している。また、学生が人目を気にせず安心して来談できるよう、カウンセリング室の配置等にも配慮している。 支援にあたっては個人情報の保護を厳守した上で、カウンセラーと学生相談担当教員が定期的カンファレンスを実施し、個々の学生が抱える課題について情報共有を行っている。さらに、必要に応じて外部の医療機関とも密に連携し、適切な問題解決を図る体制を構築している。 また、クラス担任は学生支援委員会の教職員と緊密に情報共有を図りながら、学生の悩みやトラブルの早期発見・早期対応に日々努めている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：1. 本学ホームページ（情報公開）

2. 本学ホームページ

1. フェリシアこども短期大学 研究紀要

本学情報公開ホームページ 9. 研究活動の公開について

<https://www.felicia.ac.jp/public.html>

2. 教員（研究活動・教育活動・社会的活動）

https://www.felicia.ac.jp/department_of_ice/teacher_introduction.html

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F213310104482
学校名 (〇〇大学 等)	フェリシアこども短期大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 明泉学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		70人（ 29 ）人	55人（ 25 ）人	74人（ 29 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	34人	24人	
	（うち多子世帯）	（ 一人）	（ 一人）	
	第Ⅱ区分	一人	一人	
	（うち多子世帯）	（ 一人）	（ 一人）	
	第Ⅲ区分	11人	一人	
	（うち多子世帯）	（ 一人）	（ 一人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	一人	一人	
	区分外（多子世帯）	15人	12人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ 0 ）人
合計（年間）				74人（ 29 ）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当	人	一人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	一人	一人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	一人	一人
計	人	一人	一人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

年間	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	人	前半期	後半期
		一人	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
GPA等が下位4分の1	人	一人	一人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	12人	一人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	12人	一人
計	人	18人	16人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。